



(写真提供：常総市)

今月の1枚

## 水海道風土博物館 坂野家住宅

国の重要文化財である「坂野家住宅」は、関東地方の旧家・名家・商家など約200軒が掲載されている「大日本博覧図」（明治23(1890)年発刊）に収録された銅版画を元に、当時の姿が再現されました。

坂野家住宅がある常総市は、江戸時代より鬼怒川水運の要衝として、護岸を中心にまち並みが形成されてきました。この鬼怒川と小貝川に挟まれた田園地帯に、500年ほど前から土着したのが豪農・坂野家です。

坂野家が豪農として基礎を固めたのは、江戸時代中期の享保10(1725)年に始まる飯沼新田開発の時といわれています。当時の当主であった伊佐衛門は、3,000町歩(30km<sup>2</sup>)におよぶ大事業において、幕府から事業者の責任である「頭取」のひとりに命じられ、米の生産拡大に尽力しました。昭和8(1933)年の記録によると、坂野家の農業規模は、米が1,300俵(小作米含む)、小麦600俵、使用人7名を抱えた豪農であったと記されています。今も残る屋敷構えも、新田開発の頃に造られたと考えられています。

坂野家住宅は、1haに及ぶ広大な台地の上に立ち、主屋の居室部や建具の意匠は、大型住居の発展過程を知ることが出来る貴重な遺例です。また、南面にある表門(薬医門)は、本来、武家屋敷に設けられるものであり、当時の坂野家の格式の高さを伺い知ることが出来ます。

昭和43(1968)年、主屋と表門が国指定重要文化財に登録。平成10(1998)年には常総市に譲渡されました。現在、主屋などの歴史的建造物とそれを取り巻く里山風景は、歴史情緒をまるごと体感できる空間「水海道風土博物館」として整備され、毎年多くの方が訪れています。

また、NHK大河ドラマなどの時代劇や映画、CMのロケ地としても有名で、今までに102作品が撮影され、多くの視聴者を楽しませてくれました。

この秋、テレビの画面で見た“あの景色”を探しに、歴史が刻まれた素晴らしい建造物や美しい庭園が広がる坂野家住宅へ、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

(筑波総研(株) 研究員 富山かなえ)



◆所在地：常総市大生郷町2037番地

アクセス：(車)常磐自動車道谷和原ICより約30分  
(電車)関東鉄道常総線 三妻駅から車で約10分